

## 第1回人の活躍WG 各委員からのご意見

### 女性：男女の働き方の改革

- 女性の社会進出に関して、配偶者控除の問題は避けて通れない問題。
- ワーク・ライフ・バランスが悪すぎるのではないか。これは女性だけの問題ではない。イノベーションの芽も摘んでしまうのではないか。

### 若者：社会を支える人材の育成

#### 若者関係

- 労働力が不足するといっても、働けていない若者もいる。若者が働く意欲をもって、幸福感を感じて生き生きと働けるようにすることが必要。
- 生活困窮家庭の子どもがなりやすい。こういった人たちには、経済資本がなく、文化資本も低い。親を含めてソーシャルキャピタルも低い。そこに対策が必要。また、中退・留年等の「ノンストレーター」が多い。一度「ストレーター」のキャリアパスから脱落するとなかなか戻れない。行政機関に若者政策を主として行う担当課がなく、そもそも政策が実行できない状況があるのではないか。
- 高齢者と若い世代の接点があまりない。通常の活動、業を通じてその接点があることでソーシャルキャピタルが高まるのではないか。
- 人の活躍のためには人に対する投資が必要で、家族以外の投資も必要。海外留学のような時にリスクを個人だけに帰属させるのではなく、ある程度は社会で見るといふ制度にできないか。
- ベンチャー世界では20代、30代の成功者も多く、格差の問題は別にして、総和としては若い人たちも活躍している。明確なデータに基づいて論じるべき。

#### 教育関係

- 10年先、20年先の社会を見据えて教育の内容を、教員養成の仕組みを含めて考えるべき
- 高等教育のうち、専門学校をどのようにすべきか、実態を含めて考えるべき

#### 格差の再生産の回避関係

- 社会のリスクとして、
  - ・子どもの貧困は、学歴や所得形成だけでなく、様々な悪影響がある
  - ・学校から社会に出るときに非正規になってしまうと、所得・結婚・メンタルなどに悪影響を及ぼす
  - ・中高年では、親が要介護状態になることが大きなリスクとなる。こういったことにどう対応するかが重要
- 日本は常に正規が基準となって非正規が固定化されてきた。再チャレンジの機会をいかに複層的に社会が提示できるかが重要。
- 若者・高齢者の世代間だけでなく、世代内でも多様性は広がっており、世代内の再分配という考え方も必要。

## 高齢者：高齢社会に対応した社会システムの構築

- 労働力不足対策としては高齢者の参加が必要。定年や年金支給年齢の引き上げもありうるが、その場合何らかの生活困窮対策が必要ではないか。
- 現状のままでは、亡くなる場所を得られない人が増えてしまう。約6割の人は自宅での看取りを希望しているが、現実には1割程度。こうした終末期の不安を解決していくことが必要。
- アクティブシニアの健康寿命を延ばし、虚弱化してきた高齢者の機能を落とさないよう早期のリハビリを導入するなどのサポートが必要
- 子どもや若者、現役世代の明るい未来を描くと同時に、これから高齢化していく人たちが、いかに孤立しないで、地域と関わり共助の関係を構築できるかということも併せて考えるべき。

## その他全体に関するご意見

- 我が国の人口減少は避けられないが、人口減少そのものが問題というより、高齢者の割合が増え生産年齢人口が減ることが問題である。そうした中で社会のあるべき姿を考えた時に、経済成長の意味をとらえなおし、なぜ成長が必要なのかということについての認識を合わせていくことが必要。
- 未来のテクノロジーの発達などを見据え、明るい未来を描くことが必要。皆が描くいい未来が何かということを描いてみて、では何が必要かというプロセスの選択肢を出していくべき。
- 婚外子の問題、シングルマザーの問題など、タブーや固定観念にとらわれない議論が必要。